

社会科指導案

日 時 平成29年1月27日（金）3校時

児 童 5年生

授業者

授業場

1 単元名 「国土の自然とともに生きる～生活環境を守る人々」

2 単元の目標

日本各地で起きた公害について関心を持って調べ、その様子や原因、公害を克服し起こさないための人々の工夫や努力、願いを捉えるとともに、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考え、適切に表現することができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編の中の内容（1）を扱った単元で、大単元「国土の自然とともに生きる」において、小単元「1 森林を守る人々」「2 自然災害とともに生きる」に次いで学習する単元である。「3 生活環境を守る人々」では、高度経済成長期の産業の発展や生活様式の変化、都市化の進展等により、廃棄物の不適切な処理の結果として、有害な影響を及ぼす公害が発生し、国民の健康や生活がおびやかされてきたことや、関係の諸機関をはじめ多くの人々の様々な工夫や努力により、公害の防止や生活環境の改善が図られていることなどについて、取り上げた事例に即して具体的に調べていく。その際、国土の環境保全の観点から、事例を自分自身や自分たちの生活とのかかわりで捉えることにより、国民の健康や生活環境の維持・改善に配慮した行動が求められるなど、国民一人一人の協力が必要であることに気付くようにすることが求められる。これらの学習を通して、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを理解し、身のまわりの環境を守っていくために、どのようなことが大切かを考え、適切に表現できるようになることがねらいとなっている。

(2) 目指す児童像

公害について関心を持って調べる活動を通して、高度経済成長期の工業生産では、人々の健康や自然環境を守るという考えが大切にされず公害が発生してしまったことや、様々な立場の人が協力し合い、産業の発展の在り方について見直すことで公害を乗り越えてきたことについて理解し、解決に向けた人々の取組や願い、思いの共通点を見いだしたり、自分たちの生活と関連付けたりしながら広い視野を持って課題追究し、これらの点を踏まえて自分なりの考えを選択・判断できる児童の姿を目指す。

(3) 指導観

本単元では、水俣病の解決に関わる人々の取組、北九州市のエコタウン事業、霧多布湿原ナショナルトラスト運動(以下NT運動)に関わる人々の取組について理解を深めることで、環境問題を国土全体に見られる課題として捉えることで、児童一人一人が自分事として課題追究しようとする姿を引き出していく。単元の終末に新聞づくりを設定し、その中で考えを交流したり、課題追究の視点など学び方を振り返ったりする活動を通して、社会認識を深めようとする態度を引き出していく。

本單元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

小学校社会科における「見方・考え方」は、社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、比較・分類したり、総合したりして、地域の人々や国民の生活を関連付けたりすることと示されている。

本研究では、「対話的な学び」を、社会的事象に対する考察・構想の場面に焦点をしばり、授業を展開していくよう単元を構成した。本單元では、公害の原因やその解決に向けた取組、北九州市のエコタウン事業、霧多布湿原NT運動の様子について、位置・空間的、時期・時間的、事象や人々の相互関係を捉える（社会的事象の意味やつながりを考察する）とともに、これらの問題を自分事として考え、自分自身や自分の生活の仕方と関連付けて考える（考察したことを基に課題解決に向けて構想する）ことができるようにする。

そのための手立てとして、考察の場面においては、提示した事象について、

- ・ **位置や空間的な広がり**…地図を基にどのような地域で起こったか、他の地域との共通点は何かなど
- ・ **時期や時間の経過**…公害が発生した頃の日本の時代背景や産業発展の様子はどうか、解決にはどれだけの時間がかかったのかなど
- ・ **事象や人々の相互関係**…公害の解決に向けて取り組んだ人々は、どのような立場でどのような工夫や努力、願いや思いを持っていたのか など

に着目して、思考ツールを活用しながら調べた情報を整理・分類をし、事象の特色や解決に向けた願いや思いなどの共通点を見いだしていく活動を通して、事象の意味やつながりをより深く理解できるようにしていく。

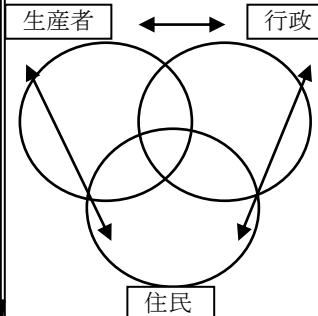
さらに、構想の場面においては、新たな見方・考え方を引き出す資料提示や、「本当にそうなのか」、「どうしてそのように言えるのか」などと問い返していくことで対話の必然性を生み、児童の思考を再構成し、根拠を明確にしながらよりよい考えを持つことができるよう適宜働きかけていく。

これらの手立てによって、より広い視野を持って根拠を明確にしながら、産業の発展と自分たちの生活の仕方について見直し、自分なりの考えを選択・判断できる姿を引き出していく。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・表現・判断	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
ア国土の環境保全や公害の防止の重要性に関心を持ち、協力することの大切さを考えようとしている。	ア国土の森林資源の働き、自然災害の防止の取組、公害と生活環境などについて学習課題や予想、学習計画を考え、表現している。 イ自然条件、自然災害や公害、人々の生活や産業などを相互に関連付けて、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考え、適切に表現している。	ア地図、地球儀その他の資料などを活用して、我が国の国土の自然などの様子について、必要な情報を集め、読み取っている。	ア国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを理解している。 イ公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さを理解している。

5 学びの過程のデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p>水俣病の経緯や解決に向けた取組に関する映像資料を提示し、公害が自分たちの生活と身近な存在であることに気付くことができるようにする。</p>	<p>1 時間目</p> <p>産業の発展と公害の発生、またそれに対する人々の取組の様子について知り、課題を設定し、単元を通じた学習の見直しを持つ。 関ア 思ア</p>	<p>ベン図（3領域）を活用し、住民、行政、生産者の3つの立場からどのような取組が行われているのかを整理する。</p>
<p>国土の環境保全に対する自分なりの考えを持つために、自分の経験を基に予想したり、公害の解決のための具体的な取組について調べたりする活動を通して、課題追究しようとする姿を引き出していく。</p>	<p>2 時間目</p> <p>水俣病の解決に向けた取組の様子について調べ、まとめる活動を通して、事象や人々の相互関係について考える。 技ア 知ア</p>	<p>重なる部分の事実を中心に全体交流で概念を共有し、取組には「一人一人の協力」が重要であることに気付くようにする。</p>
<p>水俣病の解決に向けて、どんな人が、どんな工夫や努力、願いを持って取り組んでいったのだろう。</p> <p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他にも同じような取組があるのかな？もっと知りたいな。 自分ならどうしたかなあ。 どんな協力の仕方が大切なんだろう。 	<p>3・4 時間目</p> <p>北九州市の「環境モデル都市」に関する取組や社会見学で学習した自動車リサイクル事業の取組について調べ、まとめる活動を通して、環境保全に寄与した生産の在り方や持続可能な社会への発展に向けた取組について考える。 知イ</p>	 <p>取組の様子を基に、そこに関わる人の思いや願いを考えることができるようにする。 I</p>
<p>北九州市の「環境モデル都市」に関する取組では、どんな人が、どんな工夫や努力、願いを持って“協力して”取り組んでいるのだろう。</p>	<p>5 時間目</p> <p>霧多布湿原 NT 運動の取組について詳しく調べ、立場を整理しながらまとめる計画を立てる。 技ア</p>	<p>思考ツールに調べた情報を整理した段階で、取組の様子について、関わった人々の思いや願いにも着目し、共通点に気付くことにより、事象の意味やつながりをより深く理解できるようにする。 II</p>
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じような協力の様子があった。 立場は違っても、同じ思いを持って解決に向けて取り組んでいた。 未来まで続けていくことが大切だ。 身近な所でも同じような問題はあるのかな。 	<p>6 時間目（本時）</p> <p>霧多布湿原 NT 運動の取組についてまとめ、既習の事例と比較・関連付けを図りながら、環境保全に向けた自分なりの考えをまとめる。 思イ</p>	<p>近年の釧路市の都市開発の様子と釧路湿原の関係について資料を提示し、自分たちの便利で豊かな生活が、産業の発展によって支えられていることに気付くようにする。 II</p>
<p>霧多布湿原 NT 運動の取組では、どんな人が、どのような工夫や努力、願いを持って、“協力して”取り組んでいるのだろう。</p>	<p>7 時間目</p> <p>国土の環境を守ることと豊かで便利な生活との関係について、考えたことを交流しながら自分の生活の仕方を見直し、単元新聞にまとめる。 思イ</p>	<p>考えを交流し深めていく場面においては、学習内容を基にして根拠を明確にしながらか発表し合うことで、広い視野から課題追究し、より良い考えを持つことができるようにする。 II</p>
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近にも同じような環境問題が存在し、取り組んでいる人がいた。 環境を守っていくことも産業や自分たちの生活を発展させて行くこともどちらも大切だ。 自分にも何かできないかな。 他の人はどう考えたのかな。 	<p>これまでの学習を振り返り、国土の環境保全について自分なりの考えを交流し、まとめよう。</p>	
<p>学び方や考えの変容について振り返ったり、新たな疑問や追究したい事柄を整理したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> NT 運動の取組を参考にして、自分の生活の仕方考えることができた。 友達の意見を聞いて、複数の視点から根拠を整理して考えが持てた。 		

身の回りの環境を守るために、どのような人々が、どのような取組をしているのだろう。（仮）

6 本時について（6／7時間目）

（1） 本時の目標

霧多布湿原NT運動に取り組む人々の工夫や努力・願いを捉え、他の事例と比較したり関連付けたりする活動を通して、国土の環境保全の観点から、産業の発展と自分たちの生活の仕方について見直し、考えることができる。

（2） 本時における研究の視点

本時においては主に研究の視点ⅠとⅡについて、手立てを講じていくことになる。

Ⅰ 霧多布湿原NT運動の取組について調べたことを、全体交流を通してベン図にまとめる。その際、住民、行政、生産者の3つの領域に分けて、環境を守るためにそれぞれの立場でどのような取組を行っているかを整理することで、課題の解決に向けて、様々な人が同じ願いや思いを持って、協力して取り組んでいることを捉えることができるようにする。

Ⅱ これまでの3つの事例について調べる活動を通して、児童は「人の営みによって自然環境がおびかされている」、「自然は大切であり、汚したり壊したりしてはいけない」、「出来る限りありのままの形を残すべき」といった考えが大きく膨らんでいる。そこで、近年の釧路市の都市開発の様子について資料を提示することで、現在の自分たちの生活も産業の発展によって支えられていることに気付かせ、国土の環境を守ることと豊かで便利な生活との関係について、広い視野で自分の考えを再構築していくことができるようにする。その際、課題解決の視点が地域だけにとどまることなく国土全体のものであるということを改めて確認し、広い視野から自分たちの生活の仕方について見直し、かんがえることができるようにする。

（3） 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】個に応じた指導(▲)
1. 前時までの活動を想起し、本時の課題を確認して、学習の見直しを持つ。 ・自然環境を大切にしようとしているのは、住民だけでなく、市や生産者も同じだった。 ・協力の具体的な様子もだいたい見えてきたよ。 ・住民の取組についてももっと知りたいな。	・前時まで水俣病の解決に向けた取組や北九州市のエコタウン事業を参考にしながら、本時ではさらに他の事例についてまとめる活動を通して産業の発展と、自分たちの生活の仕方について考えることができるようにする。	
霧多布湿原NT運動は、どのような工夫や努力をしながら行われているのだろう。		
2. 霧多布湿原NT活動の取組について調べた情報を、立場を住民・行政・生産者に分けながら、ベン図にまとめる。 ・班、全体で交流しながら、取組や関わっている人々の思いや願いについても考える。 ・寄付金を募り、土地を買い上げている。(少しでも多くの自然を将来に残したい。) ・湿原の復元実験を行っている。(豊かな湿原の環境を取り戻したい。) ・生産の効率化・廃棄物の適切な処理(豊かな自然環境を守りながら生産性も高めたい。) 3. 既習の事例と比較し共通点について話し合う。 ・どの事例も、3つの立場が協力し合い、同じ思いを持って取り組んでいる。 ・豊かな自然がずっと続いて行くことを願っている。	○視点を整理しながら、まとめ方を確認する。 ○整理した事実を基に「願いや思い」に焦点化する発問をする。 「なぜこのような取組を行っているのだろう？」 「だれのための取組なのだろう？」など ○立場やつながりに注目させ、協力することや一人一人の行動が大切であることについて確認する。	【思イ～ ワークシートの記述、観察・発言】
・霧多布では、多くの人達が協力し合い、豊かな湿原を守り続けようとしている。		
4. 釧路市の都市開発の様子について知り、自分たちの豊かで便利な生活も産業の発展によって支えられていることを知り、広い視野から課題を追究しようとする。 ・環境の保全だけを考えることは、よくない。 ・事前の調査や自然の影響を考えた上での開発が必要だ。 ・開発も自然保護もどちらも大切だ。 ・どのように取り組んでいけば良いのだろう。 ・どの事例でも大切にしていることってどんなことだろう？	○釧路湿原の都市開発の様子について現在と過去の航空写真を資料として提示し、課題をより身近なものとして捉えることができるようにする。 ○身近な環境を守っていくことが、国土全体の環境保全にもつながることを改めて確認し、広い視野を持って環境保全に向けた自分なりの考えをまとめる見直しを持つことができるようにする。	
5. 本時を振り返り、次時の見直しを持つ。 ・他の意見を聞いてから、自分の生活の仕方について見直したい。 ・まずは自分にできそうなことから考えよう。 ・他にもまだまだたくさんこの課題に取り組む人がいると思う。	□次時の学習の見直しとして、なぜ考えが変わったかや、どう考えていけば良いかなど交流の視点や必要性などを全体で確認することによって、より広い視野から選択・判断ができるようにする。	【思イ～ ノートの記述、観察・発言】